

中津市民病院化学療法プロトコール

【レジメンNo】H-42

申請日	承認日	委員長	印
レジメン登録日 (見直し 2020/3/16)	仮承認日	承認者	印

E-Ld(1~2コース目) 療法	病名	多発性骨髄腫	血液内科	医師名
対象 再発または難治性の多発性骨髄腫(少なくとも1つの標準治療が無効または治療後に再発した患者)				

薬剤商品名 (カタカナ)	投与量 (mg/m ² 等)	投与方法 (div,iv,po等)	投与スケジュール(日)																			
			1	5	8	10	15	20	22	25	30											
エムプリシティ(エロツズマブ)	10mg/kg	div	○			○				○				○								
レブラミド(レナリドミド)	15~25mg/Body	p.o	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
デキサート(デキサメタゾン)注	20~40mg/Body	div	○			○				○				○								

投与間隔・休薬期間等: 28日=1コース

エムプリシティは週1回投与。レブラミドは21日間連続投与、7日間休薬を1コースとする。
デキサート注は、20~40mg/body。高齢者や糖尿病患者では、さらに減量することもある

【投与処方例(前投薬など)】※0.22 μmのメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを使用

1コース目

カロナール(200mg) 2錠 デキサート注開始時に内服(エムプリシティ開始45~90分前には内服)

- ① メインキープ【緑】生理食塩液250mL /div
- ② メイン【赤-1】生理食塩液50mL+ハイドロコトシ100mg+ポララミン注5mg /div 5分
- ③ メイン【赤-2】生理食塩液50mL+デキサート注20~40mg /div 15分
- ④ 【コネクタ】ファモチジン注20mg 1A /iv 5分
- ⑤ メイン【赤-3】生理食塩液100mL /div 45分
- ⑥ メイン【赤-4】生理食塩液250mL+エムプリシティ /div (※)
- ⑦ メイン【白】生理食塩液50mL /div (エムプリシティと同じ速度で)

※エムプリシティの速度

0.5mL/分の速度で開始し、患者の忍容性が良好な場合に、状態を確認しながら速度を段階的にあげることができる。ただし、5mL/minは超えないこととする。

		投与速度	
1コース目	初回	投与開始0～30分	0.5mL/min
		30～60分	1mL/min
		60分以降	2mL/min
	2回目 (Day8)	投与開始0～30分	3mL/min
		30～60分	4mL/min
		60分以降	
	3, 4回目 (Day15,22)	投与開始から	5mL/min

2コース目

カロナール(200mg) 2錠 デキサート注開始時に内服(エムプリシティ開始45～90分前には内服)

- ① メインキープ【緑】生理食塩液250mL /div
- ② メイン【赤-1】生理食塩液50mL+ hidroコートン100mg+ポララミン注5mg /div 5分
- ③ メイン【赤-2】生理食塩液50mL+デキサート注20～40mg /div 15分
- ④ 【コネクタ1】ファモチジン注20mg 1A /iv 5分
- ⑤ メイン【赤-3】生理食塩液100mL /div 45分
- ⑥ メイン【赤-4】生理食塩液250mL+エムプリシティ /div (点滴速度 5mL/min)
- ⑦ メイン【白】生理食塩液50mL /div (エムプリシティと同じ速度で)

【エムプリシティでインフュージョンリアクションがおきた際の対応】

インフュージョンリアクションがおきた際には一旦、点滴を止める。

Grade1以下に回復した際、0.5mL/分の速度で再開する。

患者の忍容性が良好な場合に、状態を確認しながら**30分毎に0.5mL/minずつ速度をあげる**ことができる。

最終の投与速度は、○コースDay○○の投与速度とする。

ただし、5mL/minは超えないこととする。